

絹の光沢としなやかさ、綿の肌ざわりを併せ持つ

広幅交織織物の開発

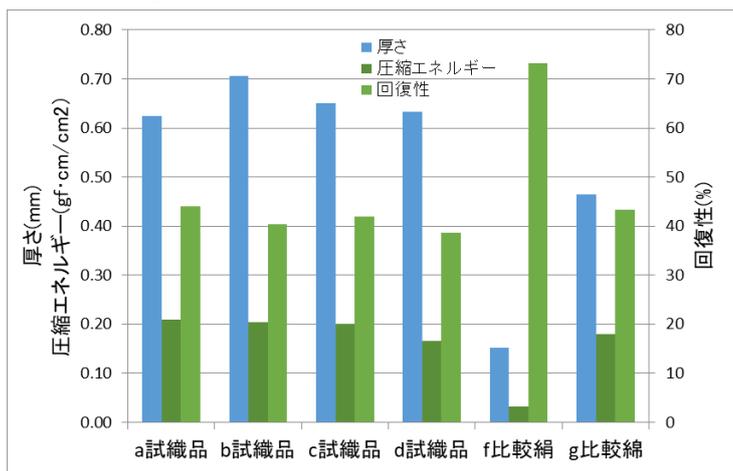
タテ糸に絹糸、ヨコ糸に綿糸を組み合わせた交織織物において、衣類の表側に絹のしなやかさと光沢、裏側となる肌に触れる面に綿の柔らかな肌ざわりを持ち、かつボリューム感と保温性に優れた商品の開発をおこないました。

条件を変え試織した交織朱子織物において、絹のあらわれる面を光沢計で測定したところ、比較品の絹織物とほぼ同等値を示しました。また、同様に保温性の比較では20%程度高い値を示しました。

風合い試験機による圧縮特性では、絹織物に対し厚みで約4.2倍、圧縮エネルギーで約5.6倍の値を示し、比較品の綿織物と同程度の値となっており、ヨコ糸に用いた綿糸の特徴を生かしたボリューム感(ふんわり感)のある織物となっています(図1)。

試織した生地の中から2種を選定し、生地の特徴を生かした縫製品サンプルとしてパジャマを作成しました(図2)。

このサンプルを用い、製品とした際の保温性をサーマルマネキン(THM-117S/217S 京都電子工業(株)製)を用い、比較品の絹織物で同じデザインのパジャマを縫製し保温性を比較したところ、平均で11%向上していることが分かりました。



風合い測定システム 圧縮試験機
KES-FB3-A KES カトーテック(株)製
図1 圧縮特性



図2 試作縫製品パジャマ
(左:薄地、右:厚地)

※試織品及び比較品は、それぞれ、生地の厚さや、単位面積当たりの重量(目付)が異なるため参考値となります